ふれあいの森の移り替わり

堺自然ふれあいの森は 2006 年 4 月 2 日に開園しました。園内の動植物調査や里山の維持 管理活動、イベント運営などは指定管理者と NPO 法人いっちんクラブが連携し実施しています。 ここでは、開園後の取組みと、現在の同地点の様子を比較してご紹介します。





2011年4月の「春のふれ あいの森まつり」で、一般 駐車場の北側に、シリブカ ガシを植樹しました。

2011年







現在

園内のチャノキを移植しま した。今では毎年 5 月に茶 摘み・茶揉みイベントが出 来るまで成長しています。

2006年





アカマツ林再牛のため、ア カマツの幼木を育てていま す。

2008年

現在

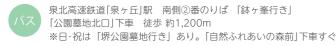
堺自然ふれあいの森

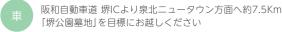
開園時間 9:00~17:30(3月~10月)・9:00~16:00(11月~) № 月曜(祝日の場合は、翌日休み)、年末年始

入園・入館・駐車場 無料

〒590-0124 大阪府堺市南区畑 1740

TEL 072-290-0800 http://www.sakai-fureainomori.jp/





発行 堺自然ふれあいの森 指定管理者(ふれあいの森パートナーズ) ふれあいの森パートナーズは、㈱生態計画研究所・NPO 法人いっちんクラブの連合体です。

拡大図 公園墓地北口 白然ふれあいの森前 → … 堺自然ふれあいの森

堺自然ふれあいの

ニュースレター 第44号

発行: 令和4年3月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)

プログラム報告

大学院生による「里山保全の普及啓発プログラム」の開催(2022年3月6日)

大阪府立大学の加我教授と5名の大学院生を講師に迎え、オンラインによる 「里山保全の普及啓発プログラム」を試験開催しました。

今回の取組みは、今後ふれあいの森が南部丘陵の緑地保全の拠点施設と して、敷地内だけの活動に留まらず、周辺地域も含めた豊かな里地里山の環 境を次の世代に継承していくために、自ら率先して里山保全の取り組みを実 践できる担い手育成の一環として開催しました。

講師を務める大学院生に対しては、事前にふれあいの森のスタッフが、里山 を保全する上で必要となる植生調査や植生管理の方法について、レクチャー



を行いました。レクチャー後、大学院生は、植生調査のやり方や木を伐る際の装備、伐り方などについて、動画やスラ

イドを織り交ぜながら資料を作成していました。

実際のプログラムは、中高生を対象に開催しました。当日は、加我教授に よる講義「堺市のみどり、その中での南部丘陵の里山について」の後に、 大学院生から里山の保全の必要性や植生調査、整備の方法などについて の説明がありました。最後は講師と参加者を交えて意見交換を行いました。 中高生からも整備の方法や整備で発生する間伐材の活用方法などについ ての提案があり、活発な意見交換を行うことが出来ました。今後も、この地 域で活動する担い手育成のための取組みを進めていきたいと思います。



新型コロナウィルス感染症対策について

新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止対策として、現在以下の対応を実施しています。

- ■来園時のお願いについて
- ・発熱や体調不良時の来園自粛
- ・来園時の手指消毒(森の館内外の複数個所に消毒液を設置しています)
- ・マスクの着用(屋外で職員や他の来園者と会話をする際や館内利用時)
- ・館内での飲食禁止(緊急事態宣言もしくはまん延防止等重点措置発令時)
- -・検温及び体調確認
- ・付き添いの方は参加者から離れた場所からの見学
- ■団体受入れについて
- ・| 団体最大 | 00名程度まで一度に来園可能
- ・スタッフによるプログラム対応は、内容や人数に制限有。

※この他にも利用制限を設けている場合があります。 最新情報は、ホームページもしくは、ふれあいの森まで お問合せください。

(令和4年3月末現在)



堺スタイル

堺自然ふれあいの森 15周年のあゆみとこれから

堺自然ふれあいの森と関わりのある方に、これまでのこと、現在のこと、 これからのことなどについて、寄稿いただきました。





大阪府立大学 名誉教授 **增田 昇** (運営会議座長)

試練の5年間&期待される里山保全活動拠点としての役割

15 周年おめでとうございます。この 5 年間は試練の 5 年間と言えるかもしれません。ふれあい の森の豊かな風景を形づくっていた大きく枝を広げていた多くのコナラがナラ枯れによって枯死 し、伐採せざるを得ない事態となりました。また、2018年には台風21号の被害によって多くの大径 木が皿根をさらして倒木、幹折れし、森の風景を一変させました。さらに、この2年間は新型コロナ 感染症の蔓延により、多くの活動やイベントが自粛せざるを得ない事態も発生し、不透明な状況が 続いています。また、保全活動の中で痛ましい事故も発生しました。一方、ナラ枯れは一定ピークア ウトを迎えたようですし、台風の爪痕も自然の逞しい回復力とともに人間が少し手を携えることによ って元の里山の風景が戻りつつあります。尾根筋からの眺望が開けたといった副次的効果も生ま れました。また、リモートによる出前講座や SNS を用いた森の魅力の日々の情報発信など、ICT を活 用した新たなツールが飛躍的に向上しました。さらに、自宅周辺で過ごさざるを得ない機会が増え、 身近に存在する自然や公園への希求も高まりつつあります。20 周年に向け、次の 5 年間はふれあ いの森への期待が益々高まっていくとともに、南部丘陵の里山保全活動の先行的モデルとして、 さらには、保全を支える活動拠点としての役割が大いに期待されます。「パートナーズ」としての管理 業務とともにこの森を支えてきた「いっちんクラブ」の活動に加え、地元の大学生や企業の方々の 参画機会の醸成など、新たな市民参画の展開も期待されます。次世代を担う子供たちがこのふれ あいの森で学び、感動し、豊かに育ち、再びこの森に帰ってくることを願って活動を続けましょう。



堺市建設局公園緑地部 部長 豊川 清雄

「森の学校」として、これからも地域の豊かな環境の継承を

堺自然ふれあいの森は、平成18年度の開園から今年度をもって15周年を迎えることになりました。今日までご尽力・ご協力いただきました方々に深く御礼申し上げます。堺自然ふれあいの森は、元は放置された雑木林で、里山としての価値が失われようとしていました。そこで、開園の5年前の計画段階から、どのような公園にするべきかを市民の方々や学識の先生方と議論を重ね、試行錯誤しながら「森の学校」をテーマに公園づくりを進めてきました。

開園してからは、市民ボランティアの方々による森の手入れや、来園者に森の魅力を伝える ガイド役など幅広く活動していただいた結果、現在では、訪れる多くの方々に、体験を通じて里 山の魅力を感じていただける森となりました。これからも市民ボランティアの方々との協働により、 引き続き森の魅力発信と、「森の学校」をテーマとした、つくりつづける公園を実践していきます。

SDGsの推進などにより、多様な生き物が生息する里山環境が注目される中、南部丘陵に位置する堺自然ふれあいの森の活動は、この地域の豊かな環境を次代に継承していく上でも重要なものとなっています。今後とも、森を訪れる方々に里山の魅力を感じ、伝えていく活動がより一層広がっていくことを願います。



南部丘陵の生物多様性を支える拠点として



大阪公立大学 教授 平井 規央

ふれあいの森関係者の皆様、15周年おめでとうございます。関係者の皆様には調査を通じて大変お世話になってきました。感謝申し上げます。堺市の生物多様性の最も重要なホットスポットである南部丘陵の中でも、ふれあいの森周辺は良好な環境が残り、昔ながらの里山の生き物と出会えます。私たちが研究対象とした動物には、周辺部を含めると、絶滅危惧種では、ヤマトサンショウウオ、ヌマムツ、フクロウなどが、外来種では、オオクチバス、ブルーギル、ヨツモンカメノコハムシなどが挙げられます。このように、貴重な絶滅危惧種が残っている反面、外来種の進出に生物多様性が脅かされている、そのような場所と考えられます。外側の周辺の森はずいぶん変わりました。かつて軽トラックが通っていた道も植物が繁茂して狭くなったり、やぶになって通れなくなったりしています。里山管理によって明るい森が残っているふれあいの森は貴重な存在です。ここが南部丘陵の動植物にとって最後の砦となるのではなく、周辺の生物多様性を向上させる拠点として、今後もさまざまな取り組みがなされることを期待しています。



里地里山に育まれて15年! さらに前進!



NPO法人いっちんクラブ 理事長 塩谷 寿牛

ふれあいの森の開園準備段階から、稲作復元や散策路つくりなどのボランティア活動を行った市民グループを母体として、いっちんクラブが2005年に誕生しました(2009年NPO法人化)。以来15年余、一貫してふれあいの森の保全整備、近隣を含めた自然環境の維持、生物多様性の確保に取り組みました。専門的な知識を有する会員を核に、ともに学び・考え・行動し、経験と知見を重ねてきました。適切に管理された自然環境を活用し、「森の学校」として多彩な体験型イベントを催し、生物多様性の向上にも努めてきました。たった15年ですが、されど15年間続けてこれたことは、ひとつの誇りです。ボランティア活動を始める動機はひとさまざまですが、ある意味で一定の心のゆとりが必要と考えます。また活動する中でゆとりが熟成されるとも言えます。市民のためのふれあいの森の持続可能性を担保するためにも、いっちんクラブは持続可能な組織体を維持し、たゆまず活動し、前進していきます。



^{堺自然ふれあいの森} 館長 木下裕美子

これからも市民のみなさまと共に森づくりを

ふれあいの森は2021年4月2日に開園15周年を迎えました。ひとえに、森で活動するNPO法人いっちんクラブの皆様、来園者の皆様、ホームページや広報誌等をご覧いただいている皆様など、森に関わる全ての方のおかけです。この場をお借りして御礼申し上げます。私が初めてこの森に来たのは、今から20年ほど前になります。その頃園路はなく、背より高い藪をかき分けながら歩いたのを覚えています。職員として再び園内を歩いた際、園路や田畑、草地などが整備され、景観の変化に驚きました。市民ボランティアの方々の協力がなければ、多くの動植物が生息する里山環境の維持や、その環境を活かしたイベント運営、小学校や幼保・こども園などの団体受入は出来なかったと思います。次世代の子ども達にこの豊かな里山環境を継承するため、この森を含む南部丘陵の魅力を発信するだけでなく、私たちが取り組む保全管理活動を体験できる機会を増やすことで、当施設の理念である「市民協働での森づくり」を今まで以上に活性化出来るよう進めていきたいと思います。

